

高賢来『冷戦と開発：自立経済をめぐる 1950 年代米韓関係』法政大学出版局、2018 年。

***本の概要**

本書は、現代韓国の直面している政治・経済問題の生じた一契機を探るべく、韓国の経済発展がなぜ生じたのか、これを可能にした 1950 年代における初期条件の形成過程について、輸出志向工業化と国家主導型工業化という 2 つの観点から明らかにしている。本書は、そうした初期条件の形成過程を、特に米国の影響を考慮に入れて、米韓両政府内部文書を使用した歴史的アプローチによって分析している。そのため、本書は、韓国は李承晩政権(1948～60 年)、米国はアイゼンハワー政権(1953～61 年)であった時期の米韓関係を中心に扱っている。このような分析によって本書は、1950 年代と経済発展が本格化した 1960 年代との連続性と断絶性を米韓関係の観点から明らかにしている。

***著者略歴**

2004 年 早稲田大学社会科学部卒業

2006 年 早稲田大学社会科学研究科修了

2017 年 東京大学総合文化研究科博士課程修了

2018 年 東京大学韓国学研究センター教務補佐員

主な業績としては、「1950 年代の韓国・沖縄関係：反帝国主義、独立、そして米軍基地」『琉球・沖縄研究』(第 4 号、2013 年)、「李承晩・張勉政権の対東アジア経済外交：フィリピン、中華民国との貿易協定締結過程を中心に」(781 号、2015 年)、「韓国輸出志向工業化の初期条件の形成：アイゼンハワー政権期米韓の為替改革をめぐる協議過程を中心に」『国際政治』(第 184 号、2016 年) など。

[関連 URL] <http://www.h-up.com/books/isbn978-4-588-64545-7.html>